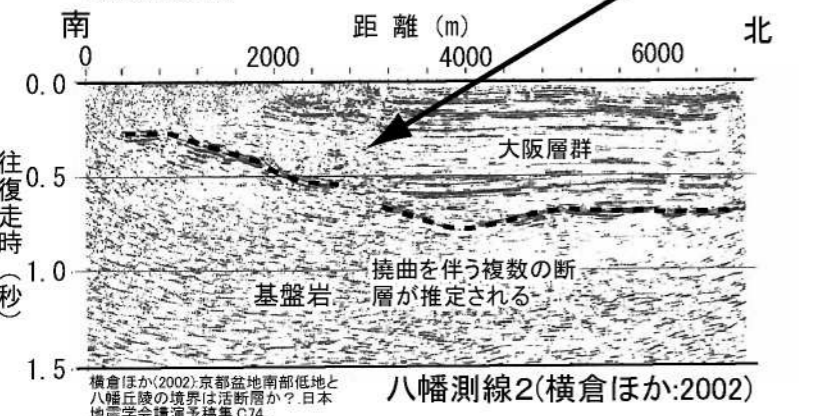
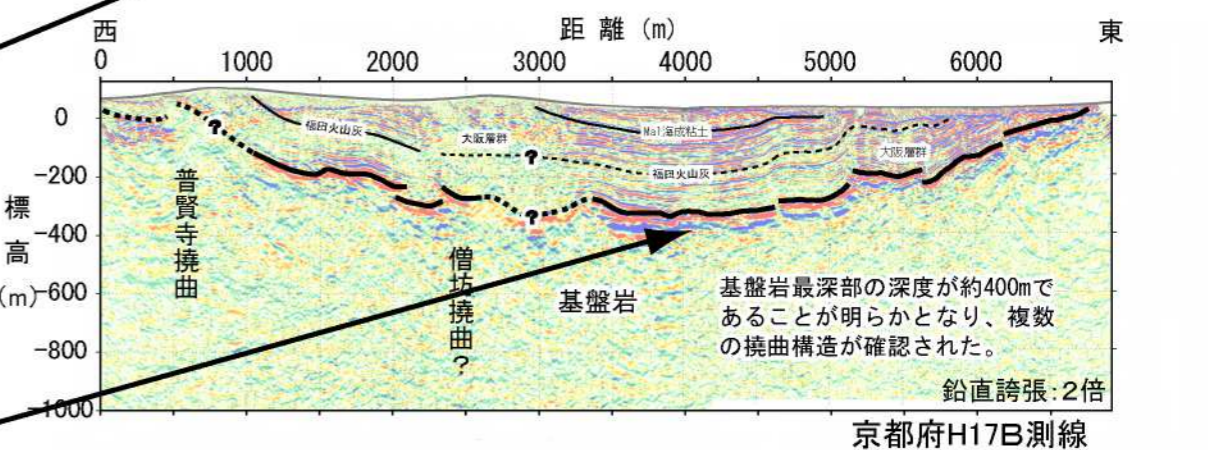
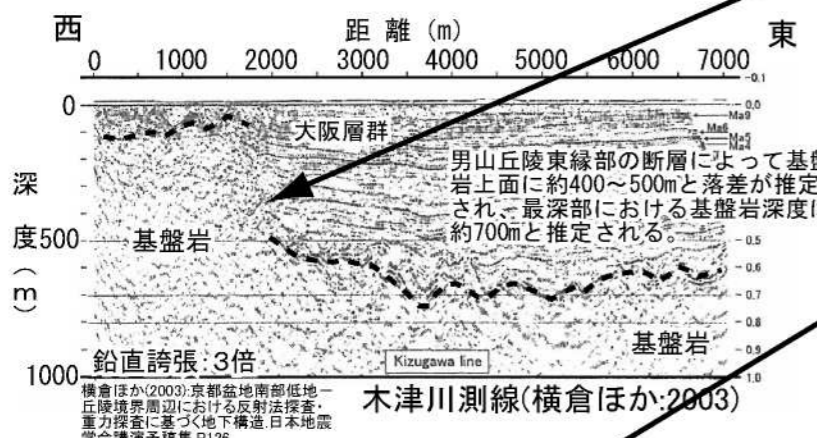
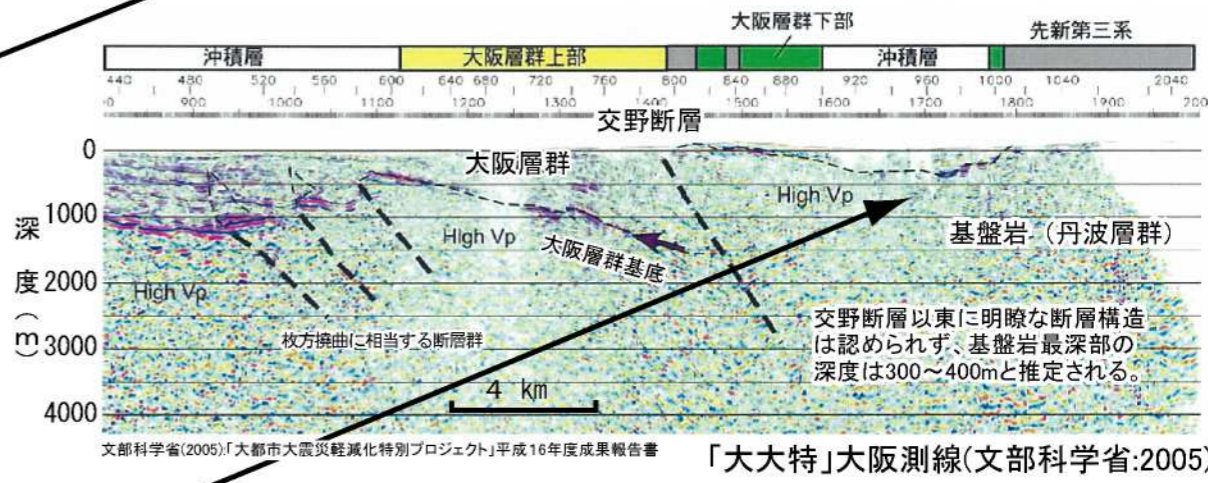
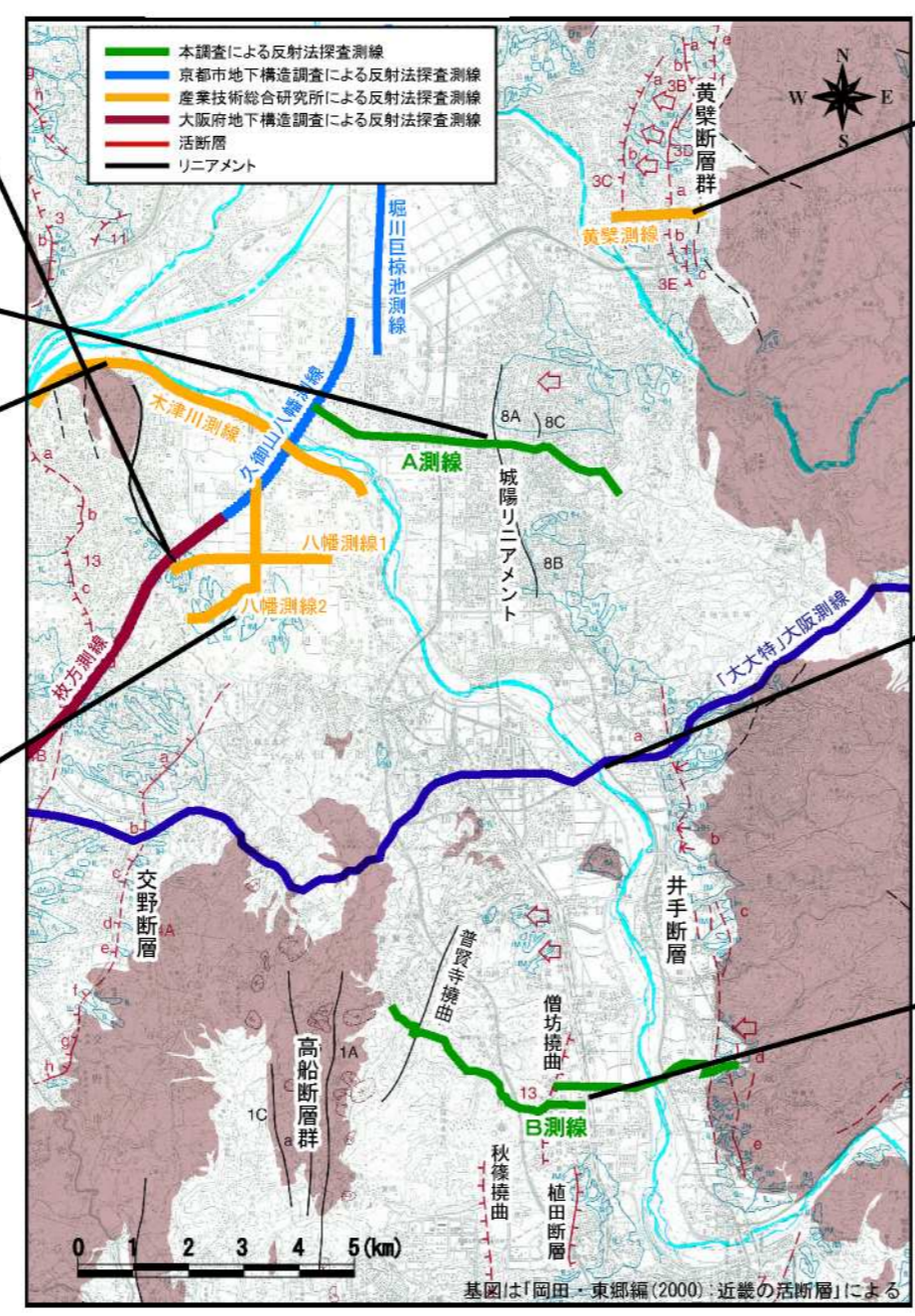
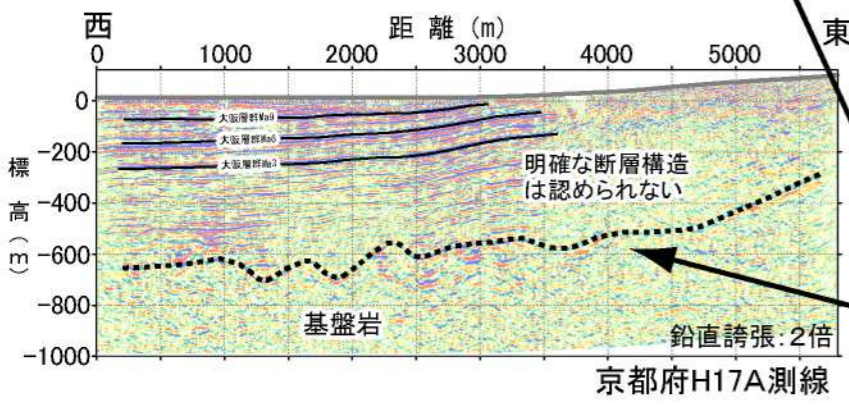
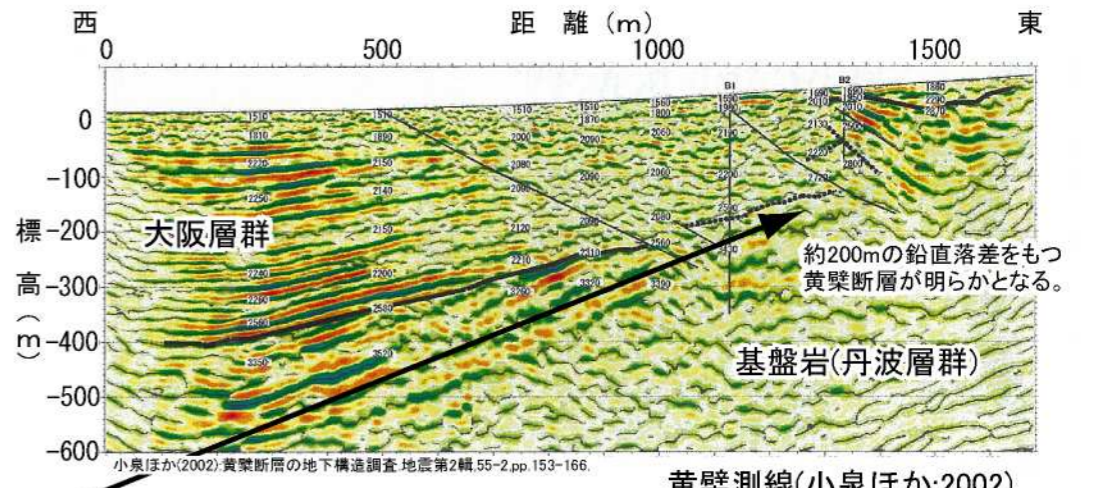
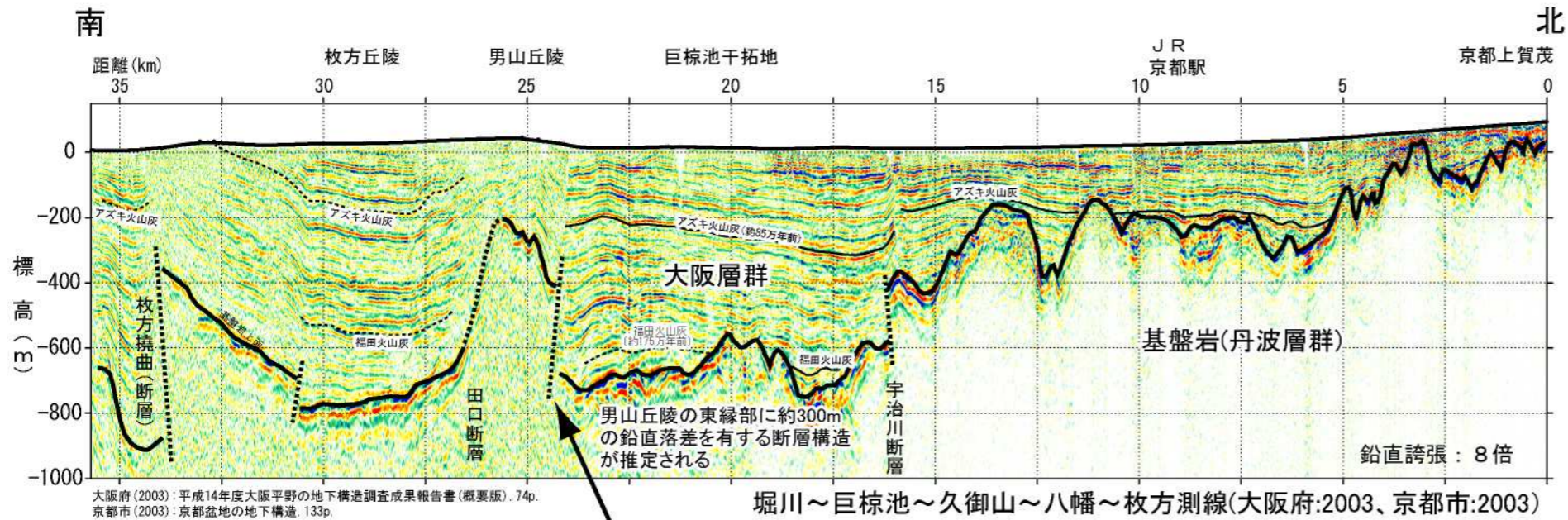


図-1 京都盆地南部の地下構造に関するおもな調査結果



最近の調査によって明らかになった京都盆地南部における主要な地質構造

男山丘陵東縁の構造:丘陵北端付近より約5km区間において断層が確認された。南部への延長は明確でないが、「大大特」大阪測線において明瞭な断層構造が認められないことより、それらの中で断層落差が解消すると推定される。

黄檗断層:城陽リニアメントとの関係が明確でなかったが、京都府H17A測線において断層構造が明瞭に認められないことより、地表地質情報とあわせると黄檗断層の南限は宇治川付近と推定される。

井手断層:京都府H17B測線における探査結果より、盆地東縁を限る井手断層は、少なくとも南部地域では落差数10m程度の比較的小規模な構造であり、大きな基盤岩落差を有する断層ではないことが明らかとなった。また、断層北部を探索した「大大特」大阪測線においても明瞭な基盤岩落差は認められていない。